

九州大学・釜山大学校都市・建築学国際連携専攻（博士）

1. ディプロマ・ポリシー

教育の目的	<p>九州大学・釜山大学校都市・建築学国際連携専攻で養成する人材像は、持続循環型社会の実現に向けて、自身が専門とする都市・建築分野はもとより、周辺領域まで幅広く俯瞰し、生活の実態や社会・文化などの背景を認識しながら環境保全に関する広範な技術や方策を理解して、それらを適切に総合化できる「都市・建築環境問題を解決するための施策・実践に向けて俯瞰力、実践力、国際力、発信力を兼備した高度専門人材」である。具体的には、次の特性を備えた人材を養成することを教育研究上の目的とする。</p> <p>本プログラムを修了した学生は、以下のことが期待される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市・建築の全体を周辺領域まで含めて俯瞰することができ、その包括的な視点から都市・建築環境に係わる問題を理解し、イノベーションを通じて都市・建築の持続的発展に向けた実践的な課題解決ができる国際的な人材 ・深刻な都市・建築環境問題を抱えるアジアをフィールドとし、現地での実践・演習や海外インターンシップを通して国際力を備えた人材 ・国際社会が求める技術者像、研究者像を自覚し、海外大学、国際機関、産業界と連携し、得られた知見や研究成果を国際学会等で広く展開する情報発信力を備えた人材 <p>上記の目標を達成し、本専攻所定の修了要件を満たした者に対して、博士（工学）の学位（Ph. D.）を、九州大学と釜山大学校より共同で授与する。</p>
参照基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般社団法人 日本技術者教育認定機構「日本技術者教育認定基準 個別基準（2019 年度～）」、「認定基準」の解説（建築系学士 修士課程 2019 年度～）」 ・ （参考）日本学術会議「大学教育の分野別質保証のための教育課程 編成上の参照基準 土木工学・建築学分野」（2014 年 3 月 19 日）
学修目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 将来のあるべき都市・建築像を想定して、それに向けた新しい研究分野を開拓し、その実現に必要な都市・建築政策への提言を行うための知識と技術 ・ 都市・建築環境を世界的な循環システムとして捉え、総合的に環境負荷を評価して管理するための知識と技術 ・ 建築物が周辺環境に与える影響を包括的に評価し、管理するための

	<p>知識と技術</p> <p>A. (主体性・協働)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建築・都市にかかわる専門知識にとどまらず，歴史，芸術，工学など自然科学や人文社会科学の知識も包括的に把握する意欲を持つ。 ・ 自ら進んで課題に取り組む積極性，国際的活動に対する実践的意欲を持つ。 <p>B. (知識・理解)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建築・都市の持続化に関わる高度な専門知識・理論・技術を習得し，それらを用いて自身の研究について詳しく解説できる。 ・ 持続的な建築・都市を計画・デザインするための専門的な理論と方法を身につける。 ・ 建築・都市の持続性を把握する方法と持続化を実現する技術に関する多面的な知識を身につける。 <p>C. (技能)</p> <p>C-1. (鳥瞰力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建築・都市・社会システムを俯瞰的に捉え，構成要素間の相互作用を考慮しながら持続型社会の課題を解決するバランス感覚，ならびに課題を創造的・批判的に吟味・検討する視点を持つ。 ・ 建築・都市が抱える課題を自ら発見し，その問題点を明確化し整理した上で，自身が身に付けた高度な専門的能力に基づいて解決に向けた研究を立案できる。 <p>C-2. (国際コミュニケーション力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 持続可能な建築・都市の実現のための方法や技術を説明できる。 ・ 問題の中身を良く吟味し，それを解決するための方法を提示し，指導的立場から実行する能力，チームを運営する能力，後進を育成する能力を身に付ける。 ・ 問題解決にあたり，蓄えた知識，他者との交流から，様々なアプローチの可能性を考える。 <p>D. (実践)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「B. (知識・理解)」に加えて個々の知識を応用・総合し，かつ自らの創造性を発揮して，建築・都市の持続化を提言できる能力を身につける。 <p>持続可能な建築・都市に関する高い専門知識を基に，客観的分析と論理的思考を通じてその問題点を明確化し，海外の各フィールドでの個別課題に対して実践的な解決方法を立案できる。</p>
--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

- ・ 問題を論理的・分析的に解決するとともに、それによって新たな知見を導くことができる。
- ・ 高い学習意欲を維持するとともに、専門家としての社会との関わりを自覚し、高度な倫理感を持つ。
身につけた建築学に関する高度な専門的能力を自身の研究に応用・展開し、自立した研究者として国内外における専門分野の発展に貢献できる。

2. カリキュラム・ポリシー

- ・ 研究企画力の養成：将来のあるべき都市・建築像を想定し、それに向けた新しい研究分野を開拓する研究課題の企画力を養うため、研究グループ内に限らず、様々な研究グループとのディスカッションの機会を設ける教育研究体制を構築する。
- ・ 多角的な視点の獲得：都市・建築環境を世界的な循環システムとして捉える多角的な視点を修得するため、社会的背景の異なる研究フィールドを有する複数の教員から指導を受けられる環境を整備する。
- ・ 専門分野の研究手法の修得：参画する共同研究を通して、専門領域に限らず建築物が周辺環境に与える影響を包括的に評価する手法等を修得するため、研究グループにおいて当該学生が担当する研究手法を精査する指導体制を整える。

【コースワーク】

- ・ 本専攻に入学する学生は、九州大学と釜山大学校の両大学に学籍を置き、研究指導を中心として編成されたカリキュラムを履修する。
- ・ 本専攻の教育課程は、各大学で研究企画力を養う科目「Research Planning I・II」と研究手法を直接学ぶ科目「Research Methodology I・II」（各1単位、合計4単位）を開講し、加えて国際共同研究を実施する共同開設科目「Doctoral Thesis Research I～III」（各2単位、合計6単位）から構成する。
- ・ 「研究企画力を養う科目」は、1年次の前・後期に主大学と連携大学においてそれぞれ「Research Planning I」と「Research Planning II」を開講する。
- ・ 「研究手法を学ぶ科目」は、1年次の前・後期に主大学と連携大学においてそれぞれ「Research Methodology I」と「Research Methodology II」を開講する。
 - ・ 「国際共同研究を実施する共同開設科目」は、2年次前期から3年次後期に「Doctoral Thesis Research I～III」を開講する。

【研究指導体制】

- ・ 博士後期課程・前半は、独自の研究課題を設定し、質の高い研究計画を立案する能力を獲得することを目的に、主大学の第一主指導教員と連携大学の第二主指導教員監

督の下、学生を複数の研究グループに参画させて協働教育する。当該期間には、各国に最低6ヶ月は滞在することを義務付け、ここでは学生自身の専門分野となる両大学に置く主指導教員の研究手法の他、それとは専門が異なる分野の研究手法を両大学の副指導教員等より学ぶ。（「Research Methodology I・II」、「Research Planning I・II」）

・博士後期課程・後半は、各大学に配置する主指導教員（各1名）及び副指導教員（各1名）の合計4名から構成される国際共同研究を目的とした研究グループによる研究指導を主体に展開する。半期6ヶ月のセメスターを1つの区切りとして、セメスター毎に発表会を開催し、各段階における研究状況を基に当該科目の成績を評価する。（「Doctoral Thesis Research I～III」）

【学位論文審査体制】

・次の3段階で学位論文と関連する審査を行う。

①中間審査：博士後期課程・前半終了時に行う博士後期課程の研究計画に関する審査。

②事前審査：中間審査後、研究グループによる指導体制に移行し、半年毎の中間発表を経て、論文提出のおおよそ半年前に実施する審査。

③学位論文審査：提出された博士論文に対する審査。

・各審査は、全て2段階となっており、審査結果の判定はJDP運営委員会が行う。

・学位論文審査は、JDP運営委員会にて選出された論文調査委員（九州大学及び釜山大学校の教授または准教授（釜山大学校のAssistant Professor（日本における准教授と助教の間に相当する職位）を含む）から各大学2名と両大学または他大学から関連分野の教授または准教授（釜山大学校のAssistant Professorを含む）1名の計5名以上）による論文審査と発表会形式の公開試験により、厳格性、透明性を担保する。

【継続的なカリキュラム見直しの仕組み（内部質保証）】

両大学は、最初の修了生を輩出した後、共同で自己点検及び／又は外部評価を実施し、その後も定期的に共同で自己点検を実施するものとする。教育の質保証のため、当該評価の報告書は、各大学のウェブサイト上で公表するものとする。

3. アドミッション・ポリシー

求める学生像	建築、工学、都市計画、都市デザイン（以下「特定分野」という。）のバックグラウンドを持ち、建築環境の持続的発展のための革新的なソリューションの開発に取り組む学生を求める。受け入れる学生が、以下の知識及び意欲を有すること： (1) 高い語学力（特に英語）を有する者；
--------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>(2) 特定分野に関する十分な知識を有する者；</p> <p>(3) 国際的な活動において、十分に意思疎通ができ、リーダーシップを発揮できる自立した研究者になる意欲がある者；</p> <p>(4) 特定分野に関する最新の知識・技術及び学際的な知識を習得しようとする意欲のある者；そして</p> <p>(5) 実践的な課題に取り組む意欲がある者</p>
<p>入学者選抜方法との関係</p>	<p>主大学は、アドミッション・ポリシー (1)、(2)、(3) 及び (4) に基づき、第一次選考を行う（以下「第一次選考合格者」という。）。</p> <p>第一次選考合格者に対する第二次選考は、アドミッション・ポリシー (5) に基づき国際連携専攻会議が行い最終的な合否判定を行う。</p> <p>両大学は、アドミッション・ポリシーを踏まえ、志願者または第一次選考合格者を応募書類及び口頭試問により評価する。</p>